

令和の頭痛診療

プライマリ・ケア医のためのガイド

令和3年(2021年)は、カルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)関連抗体薬がわが国でも片頭痛治療に使用できるようになり、『頭痛の診療ガイドライン2021』が改訂・公開されました。まさに、わが国の頭痛医療のマイルストーンとなる年でした。頭痛関連の講演会や勉強会、さまざまな情報提供がなされるようになり、新たに頭痛診療に興味をもっていただいた方や、これまで以上に頭痛診療に取り組もうとする方も増えています。このようなわが国における頭痛医療の状況をふまえ、プライマリ・ケアに携わる医師や研修医、さらには薬剤師、看護師、臨床心理士、理学療法士など、頭痛診療に関わるすべての医療従事者にわかりやすく包括的な情報を提供できる特集をめざして企画させていただきました。執筆陣はわが国の頭痛医療のトップエキスパート、オピニオンリーダーとしてご活躍の方々をお願いしました。

座談会には、総合診療のトップエキスパートである生坂政臣先生と、わが国を代表する頭痛専門医である五十嵐久佳先生をお招きしました。

第Ⅰ章は「頭痛の診療 Start-Up」として、頭痛診療を始めるにあたりこれだけは知っておいてほしい情報を解説していただきました。これから頭痛診療を始める方、少し頭痛についても勉強しようとお考えの方の入門的解説を意図しましたが、本格的な頭痛診療を実践するための基礎知識の再確認としてもご活用ください。わが国では約840万人が片頭痛に罹患しており、その約7割は頭痛により日常生活に支障をきたしているにもかかわらず、専門科への受診は限定的とされています。すべてのプライマリ・ケアに関わられる方が慢性頭痛の知識をもっといただくことはきわめて重要です。

第Ⅱ章は「頭痛診療 One-up」として、これまでは頭痛専門医に任せていた課題を解決するための情報をまとめていただくように企画しました。頭痛患者さんに寄り添った頭痛診療をするためのノウハウや知識が詰め込まれています。

第Ⅲ章は「頭痛診療の Tips & Topics」として、最新のトピックスや実臨床に役立つ情報、頭痛診療の質的向上につながる情報、頭痛診療が楽しくなるような学術的な話

題を集めました。また、紙数の関係で第Ⅱ、Ⅲ章に盛り込めなかった重要項目、最新の話題をコラムとして解説いただいています。

令和の頭痛診療必携の特集号になっていると自負しています。多くのプライマリ・ケア医と医療従事者にお読みいただき、わが国の頭痛医療のレベルアップと地域による格差の解消に貢献し、その結果として多くの頭痛で苦しんでいる方々とその家族のQOLの改善につながれば幸いです。



竹島 多賀夫

寿会富永病院・富永クリニック 脳神経内科・頭痛センター